

## なからぎ

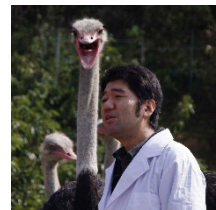
232号

2021年1月

## 読み書きそろばん

学長 塚本 康 浩

「本を読まないからお前はアホなのだ」。塚本少年は母親に怒られていた。確かに姉は読書が好きで成績も良かったので、それなりに納得はしていた。本というものがあるから怒られるのであって、そもそも本を書く奴が悪いのである。ひねくれ小僧である。夏休みの読書感想文も姉が書けばいいだけやん。



高校生の時、国語の教科書に夏目漱石の“こころ”を見た。衝撃だった。三島由紀夫も素敵やん。文学部に進みたいと思ったのだが、バブルの最中、すでに文学部に在学していた姉が年がら年中遊びまくっているのを見て嫌になった。理系に進んで動物を解剖しながらでも読書はできますので。

2008年に京都府立大学に赴任してからは、多いときに日に3冊は本を読んできた。アマゾンで注文するので、妻には段ボールの処理で迷惑をかけていました。今はKindleで夜中でも読書OKです。車の中では、Audibleで2倍速の音声で聴く読書をするのです。何故なのか？ 憧れの文学部のどの先生よりも感性豊かで“売れる本”を書きたいからです。幸い、大手出版社から“本を出版しませんか？”有り難いお話をもらうことが増えてきました。

僕にはバイロンとかハイネのような言葉は浮かびません。恋愛小説は書けたとしても、周りの学生さんに笑われるやん。意外と嫉妬深い純恋愛やしね。なので、今のところ、僕の相棒であるダチョウさんの話で、しかもノンフィクションしか書けません。ただ、書きたい本ではなく、売れる本を出さなければアカンのです。出版もビジネスです。例えば10万部発行となると、単価が1,000円の単行本なら、1億円のビジネスとなります。印税は10%、Kindle化されると15%になります。そもそも出版社もプロです。学者が書く本なんぞ売れるとは考えていません。赤字すれすれで初版はせいぜい3,000部を刷る程度でしょう。予想に反して、僕の「ダチョウ本」が、書評家さんには好評で、テレビや週刊誌による自腹ゼロ円の宣伝効果もあって、2作目は重版を重ね計10万部が世に出たこととなります。途中、3万部の頃から、出版社の無愛想な担当者さんが、急に僕のことを笑顔で“先生”と呼ぶようになったのです。結局は“Money is everything”やね。

みなさん。文法が無茶苦茶で下手くそな汚い文章でもOK、リズムがあって面白い内容なら良いのではないのでしょうか？ 今はインターネットの時代、色んな媒体で個人の才能を発信することが出来ます。シンガーソングライターさん、自作ネタで勝負するお笑い芸人さん、YouTuberさん等など、ゼロをイチに変える才能を持っているヒトは素敵です。きっと、本を書いたら良い作家にもなれますよ。ヒトの心を揺さぶる力があるのですから。

“読み書きそろばん”という言葉がありますが、色んな意味で“そろばん”が一番むずかしい気がします。出版社のスタッフさんの生活までもが重くのしかかっているのですから。“Money is everything”。偉大な小説家も“そろばん”の恐怖にもがいていたのでしょうか？

## オンライン授業はお嫌いですか？

公共政策学科 下 村 誠

新型コロナウイルス感染症は大学にも大きな影響を与えた。特に、教育面では、ご多分に漏れず、本学もオンライン授業が原則となり、現在に至る。当初、そんなもん、できるか！ と一人で荒れ狂っていた私が、いまでは喜んで(?) オンライン授業をやっているのだから、我ながらゲンキンなものである。

オンライン授業に対する見方が変わるきっかけとなったのは、非常勤先で開催された教員向け講習会に参加したことだった。そこで早々に一通りの説明を受け、オンライン授業なるものあらましが分かったことから、私にもやれるかも！ ちょっと面白そう！ という実感を得ることができた。そして、本学よりも早く、私のオンライン授業がスタートした。

いまでは食わず嫌いであったと(ほんの少しだけ)反省しているが、当初は、未知なるものに対して必要以上に恐れ、不安になっていたのだと思う。これは学生も同じはずである。このような経験から、受講生には、私が行うオンライン授業の詳細を Teams にて早々に告知し、その後も、何事も早め早めに情報提供するよう心掛けている。

ところで、一口に「オンライン授業」と言っても、運用方針や使用できる設備等は大学によって異なるのであり、大学の数だけオンライン授業があると言えるだろう。私も、本学と非常勤先大学、2通りのオンライン授業を展開することとなった。また、学内でも、許された運用の範囲内で創意工夫がなされ、

様々なオンライン授業が展開されていると思う。

私はと言うと、いち早くオンデマンド型のオンライン授業を実施することにした。と言うのも、日頃からパワーポイントを使った授業をしており、もともとパワーポイントには音声を載せて動画にする機能があることを知ったからである。この動画は、パワーポイントのスライドが全面に映し出され、それに解説を加えていく私の声流れる。蛍光ペンでチェックしたり、レーザーポインタで説明箇所を指し示すこともできる。こうなると授業内容は対面授業と変わらない。なお、私の顔を映し出すこともできるが、需要がないと思うのでカットしている。非常勤先では、第1回授業の冒頭にだけ顔出しし、実在の人物であることを証明している。

また、ライブ型のオンライン授業では、開講時限に機器のトラブル等で、受講できない学生(教員側も?)が続出するのではないかと危ぶんでいた。実際には杞憂に終わったが、この点も、開講時限に厳格に拘束されないオンデマンド型授業を選択した理由である。

しかしである。本学では、動画の視聴は90分のうち30分程度に抑え、双方向性を確保せよ、という注文がついた。毎回30分程度では予定している授業内容をこなすことはできないと思ったが、「為せば成る」ものである。まず、レジュメに書き写す時間を動画から削った。つまり、受講生には、動画を一時停止して板書等を書き写してもらうのである。

次に、授業中に行っていた「確認問題」への挑戦時間を削った。代わりに、Forms で出題し、回答 (送信) してもらっている。このような状況にあるためか、余計な話をしなくなった。余計な話を楽しみにしている学生もいるが、余計な話はどこまで行っても余計な話である。

なお、私の授業構成は、①動画視聴 (メモの時間も含め 50 分程度か?) と② Teams でライブにて行う「検討会」(30 分) でスタートした。検討会が失敗に終わったことから、後期は「交流会」に名を改めて改善したものの、さらなる改善の余地があると感じている。

すっかり感化された私が考えるオンデマンド型授業の最大の利点は、いつでも・どこでも・何度でも、である。まるでジブリ作品の主題歌のようだ。「いつでも」とは言っても、動画の公開期間中に限られるが、開講時限にもし体調不良や機器のトラブル等が起きても、別の日時にまったく同じ授業を受けることができる。なお、期限を設けないのは親切なようでいて、学生を甘やかすことにつながるので要注意である。また、ネット環境さえ整っていれば、「どこでも」聴講可能である。そして、「何度でも」！ 学生によれば、理解できないところは、巻き戻し、繰り返し聞くそうである。対面授業とは異なり、ひとりで受講しているからこそ、できることである。ある学生は、動画を一通り聞き流して全体像をつかんでから、もう一度メモを取りながら聴講するそうである。このように言われると、つい、いつも以上に授業の準備に力を入れてしまう。

その他の利点として、訂正できる点も見逃せない。動画の収録後、不具合がないかを一通りチェックする。自分の講義、特に自分の声を聴き続けるのは、かなりの苦行である。チェックすると、不具合はまずないが、言い

間違い等に気づく。対面授業であれば気づくこともなかったはずである。この場合、動画をアップする際に訂正文を掲載したり、説明を補足したりする。なお、頻繁に入り込んでいるカラスの鳴き声や小鳥のさえずりは「癒し」として放置している。また、切りのいいところで終われるのもよい。大学の授業は、『水戸黄門』のように、毎回一話完結というわけにはいかない。講義終了時刻となれば途中でもぷつぷつ終わる。しかし、動画であれば、切りのいいところまで収録することができる。その結果、動画時間が 30 分を切ることもあれば、50 分を超えることもあるが、90 分に収まっているし、こちらの方が学習効果は上がると思う。場合によっては、2 回分をアップすることもある。さらに、学生から、二倍速で視聴しています、という感想が寄せられることがある。ちゃんと理解できているのか心配になるが、自分が心地よいと感じるスピードで受講できるということだから、些細なことであるが、これも利点と言える。

以上、私の経験を踏まえ、思いつくままにオンデマンド型授業の利点を挙げてみたが、もちろん、これだけではないだろうし、当然欠点もある。教員の立場から 1 つだけ挙げれば、出席管理が難しいことである。私は決して、対面授業よりオンライン授業の方が優れていると言いたいのではない。世間では、対面授業が最善の方式だという前提で議論が行われているように感じるが、択一ではなく、それぞれの利点を活かしながら、いかに授業の質を確保・向上させていくかが議論されなければならないと思う。これは、コロナ禍にあるいまに限ったことではない。教員にもいろんな立場や意見があり、また、私の管見には、学生の視点が欠如していることは承知しているが、クレームは一切受け付けないので、悪しからず！



## じゅがくあきこ すごろく 「寿岳章子双六コレクション」について

### 双六（すごろく）と正月

「……私の幼少期から少女期にかけては、お正月には必ず、なぜかは知らないが、とにかく双六は、やるものであった。羽根つき、かるた、そして双六、いわば正月の三種の神器である。」(注1) これは、本学の元教授の寿岳章子（じゅがく あきこ）先生（1924-2005）の言葉です。

寿岳先生は、日本の国語学者、エッセイストで、1951年から36年間本学の文学部で教鞭をとられました。本館が所蔵する「寿岳章子双六コレクション」は、寿岳先生が収集された江戸時代から昭和期にいたる双六206点で、1986年に寄贈されました。現在、図書館規程第2条に規定する「特別資料」として、本学図書館のお宝の一つになっています。

### 双六のおもしろさ

一般的な双六（絵双六）の遊び方は、各自がさいころを振って出た目の数に従い、盤上の自分の駒をマスの上で進め、上がりを目指すものです。双六のテーマは多岐に分かれ、絵も様々です。各マスには、それぞれ違った絵や言葉が散りばめられ、「○マス進む」「○マス戻る」「1回休み」などマスに書かれた指示に、参加者は一喜一憂します。

コレクションの一例を御紹介します。代表的な双六として、江戸期のものでは「膝栗毛道中双六」、「仁義五常振分双六」、明治期のものには「出世双六」、「當世風俗壽語録」、大正期のものは「世界第一双六」、昭和期（戦前）のものは「童話青い鳥双六」、そして、昭和期（戦後）のものには「おしん人生すごろく」などが収められています。

コレクションからは、子供たちが、絵双六を通して、さまざまな知識や教養を学んでいたことが伺え、江戸、明治、大正、昭和へと進むにつれて、その時代の世相の影響を受けていることや、人々の関心事や価値観が変化していることが読み取れます。

### 双六の言葉とは

最後に寿岳先生の御研究の一部を紹介します。

「……しかもよく使われる双六らしい言葉の双璧は「ふりだし」と「上がり」である。（中略）この2つの言葉は、よく考えてみると、単に双六用語だけにとどまらず、日本人の生き方に深く関係する言葉になっている。ひとりの人がその人生を歩んで行くうちに手ひどい失敗をしたとしよう、あるいは思いもかけぬ火事ですべての財産をなくしてしまったとしよう。そのとき人はしばしばいう、「しょうがない、ふりだしに戻ってまたやり直そう」と。」

(出典『伝統的な日本の遊び双六』小西四郎、寿岳章子、村岸義雄 共著 徳間書店)

(注1) 原文のひらがなを漢字に一部書き改めています

本学には、コレクションの他に双六に関する蔵書が20冊ほどあります。1月はそれらを集めて展示しますので、是非、来館いただき、美しい絵柄とともに、解説を御覧ください。



當世風俗壽語録（明治期）



出世双六（明治期）

## 図書館のこの1年 ～令和2年を振り返る～

新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい、いわゆる「三密（密集、密接、密閉）」を避ける対策がとられる中での図書館の一年間を振り返り、対応関係を中心にまとめました。

月 日	令和2年(2020年)の図書館の主なできごと	備考
3月7日～	コロナ対策のため臨時休館	休館期間を7回延長し、5月31日まで継続
4月1日～	休館中も I L L など個別依頼への対応継続	
4月中旬～	閲覧業務を中心に民間業務委託 在宅勤務、時差出勤、サテライトオフィスの学内制度導入に伴い、図書館職員も在宅勤務等併用	
5月上旬～	オンライン授業を踏まえ、在宅での学修や研究向けに電子媒体の活用をHP等で広報(出版各社が、新型コロナウイルス対策支援として期間限定で電子コンテンツの無料アクセスなど利用支援を実施したことなども紹介)	以後、随時更新実施
5月15日～	論文執筆予定学生を対象に貸出希望図書を宅送(～5月30日)	第1回
6月1日～	感染拡大防止対策をとりながら開館(17時閉館。建物入口では検温及び手指消毒実施) ・利用対象者を学生及び教職員に限定し、感染に備え入館を記録 ・密集を避けるため、 閲覧席を約2メートル間隔に間引き 入館の事前予約制を導入(利用人数30名以内) 滞在時間を制限(1時間半以内)。入替時に館内消毒を実施 カウンター前の床に、順番待ち用の立ち位置を2メートル間隔で表示 ・密接を避けるため、 視聴覚コーナーの利用を停止 カウンターに、既存資料を活用した簡易間仕切りを設置 ・密閉を避けるため、 開閉可能な窓のない研究個室、グループ研究室内の貸出を停止 地下書庫の入室利用を停止(職員が出納)	※  6/20～事前予約制廃止 7/15～滞在時間延長、10/6～時間制限廃止  12/1～地下書庫入室利用再開
7月	図書館報「なからぎ」の学内向け周知方法を、在宅も想定し印刷物配付から電子媒体配信へ変更	
7月2日	図書館運営委員会を初めてオンライン会議で開催	全ワーキング・グループの開催決定(計4回開催)
7月15日～	対象を学部生・院生に拡大し、貸出希望図書の宅送再開(～10月5日)	第2回
8月17日	森林科学科学生及び「森なかま」メンバーが、カウンター用に木枠の飛沫防止パーテーション寄贈	
10月24日	入学式開催にあわせ、新入生向けのライブラリーツアーを開催	
11月25日～	学内のコロナ対策用サテライトオフィスとして、図書館南会議室を活用	
12月14日～	学部生・院生を対象に、貸出希望図書の宅送再開(～2月14日予定)	第3回

※学生が安心して学業に専念できる学修環境や、教職員が安心して研究活動・学生支援活動に従事できる環境を整えるため、附属図書館規程明記の利用者に限定し、段階的に開館。

令和3年も、引き続き利用者の安全対策に十分留意しながら図書館サービスに努めますので、どうぞ御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

### 〈トピックス〉 令和2年4月～ 貸出や予約サービスなど一部の業務を委託

令和2年度から、高度なレファレンスや蔵書の選定・受入、大学の教育研究支援の業務を除き、図書の貸出や予約サービス、他館との相互利用サービスの受付といった内容を中心に業務委託を開始しました。

大学図書館業務は、大学の教育研究を進めていくための基盤となるもので、委託により平日の夜間及び土日にも、これまでできなかった平日の昼間と同様のサービスを提供できるようになりました。

例) 図書館間相互貸借利用手続 ～令和2年3月 → 平日(昼間)

令和2年4月～ → 平日(夜間を含む)及び土・日曜

大学図書館の先進的な動向の情報提供等、全国規模の委託先ならではの利点が活かされており、今後とも図書サービスの水準の向上に積極的に役立てていきます。

## ○図書館利用ガイダンス及び館内紹介について

図書館では、利用ガイダンスや館内紹介などの申込みを受け付けています。

申込み方法（授業の場合）

実施日の 1 週間前までに御連絡ください。

日時

人数

内容

時間配分

その他希望事項



授業の一部にガイダンスを活用

申込み窓口

電話 075-703-5131 (図書館閲覧担当)

メール etsuran@kpu.ac.jp

## ○宅送サービス 第3回開始

新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年12月14日から、学部生、大学院生向けに図書の本送サービスを再開しております。

申込期間は、令和3年2月14日までで、お一人につき1回で、貸出宅送料について図書館が負担します（京都市内を除く）。

詳しくは、図書館 HP を御覧ください。

## ○教員執筆図書の受入状況 ～御寄贈ありがとうございます！～

昨年、7月13日の部局長会議で著書の図書館への寄贈を呼びかけましたところ、計13冊を寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

教員のみなさまにおかれましては、引き続き蔵書の充実に御協力をお願いいたします。

### ㊦ 1年生のための図書館基礎知識 「大学図書館にある「特大サイズの愛？」」

新入生 : 図書館に特大サイズの愛があると聞いたのですが。

Mr. 司書 : もう、バレンタインデー気分ですか？

新入生 : 特大サイズ、それともLLサイズの愛だったかな？

Mr. 司書 : 勝手に変換しないでください。

正しくは、「ILL」(Inter-Library Loan)「図書館間相互利用サービス」のことです。

必要な資料が学内にない場合は、それを所蔵している他大学図書館などに貸出・文献複写・閲覧を依頼する、図書館間で相互に利用できるしくみのことです。

新入生 : 便利なしくみですね！ でも、他大学の図書館へ取りに行くのは大変だなー。

Mr. 司書 : 本学のカウンターで依頼と受渡しができますよ。

全国でたくさんの大学図書館などが加盟して、各地の大学とやりとりし、学生さんたちを応援しています。

新入生 : うれしいな、やっぱり愛LLですね。

Mr. 司書 : いいえ、「ILL」です！

図書館休館日のお知らせ 祝日、毎月第2水曜日、12/28～1/4 詳しくは図書館 HP へ